

ミニバスの始まり・・・その1

(3号：2010年7月29日)

この「会長の部屋」を使いまして、山口県におけるミニバスの歴史を振り返ってみたいと思います。もう40年も前のことですので、多少の記憶違い、勘違いもあることでしょう。その際には、お気づきの方に訂正をしていただけたらと思います。

さて、いつ頃から山口県でミニバスが始まったのでしょうか。それは昭和45年、防府市を震源地にして、近隣の新南陽市、宇部市や下関市などにチームが次々とできました。選手の一貫した育成の重要性を考えた山口県バスケットボール協会の関係者がたくさんおられた防府市でまず始まったのは当然と言えば当然と言えるでしょう。だから、この当時はミニバスの指導者には中学校の教員がたくさんいました。県下にはこの昭和45年に設立したチームで今も同じ指導者の下、今日までがんばって活躍しているところがありますが、本当に素晴らしいとしか言いようがありません。

翌年、昭和46年には山口県ミニバス交歓会も始まりました。蛇足ながら、昭和45年には第1回全国ミニバス交歓会が男女各6チームを集めて京都市で開催されています。この頃が全国いたるところでミニバスの萌芽期を迎えていたようで、山口県もしっかり全国の流れの中にいました。

昭和47年には山口県からも全国交歓会に代表チームを送り出しております。実は、私にとりましてはこの年がミニバスに関わる初めての年だったのです。県交歓会の予選では私は興奮してコーチの椅子に座っているのがやっとという状態でした。選手以上に舞い上がっていたのでは勝てるわけはありません。男子は宇部市のチームが、女子は防府市のチームが全国交歓会に県代表として出場しました。

以後、毎年1月の冬休み中に山口県ミニバスケットボール交歓会が開催されるようになりました。参加チーム数も次第に増えてきます。このように県内の熱気が高まる中、山口県ミニバスケットボール連盟の設立となってきます。その話は次回に譲るとしまして、当時の思い出をひとつ書いてみたいと思います。

ミニバスが始まったころの指導者の一番の悩みは何だったのでしょうか。それは、ミニバス用のリングがないということです。今ではどこの体育館でも上下に移動式のリングが設置されていますが、当時は小学校には講堂しかなくてコートそのものもありませんでした。ちょっとした体育館では大人用の305cmのものが殆どでした。

ではどうしたかというと、大人用のボードにつり下げようのミニのリングを取り付けるのです。これが重たくてつり下げが大変という代物です。このつり下げ用のリングが県内に数台、大きな大会の時はユニック付きのトラックで運んだ記憶があります。

また、私の手元には昭和54年の交歓会開催要項がありますが、それにはこう書かれています。「リングの高さが違います。女子1部と男子は305cmで一般用の高さです。女子2部は正式の高さとなります。」！！！！